

「救いたい心」をつむぐコミュニケーションマガジン

赤十字NEWS

Japanese Red Cross Society NEWS

<https://www.jrc.or.jp>

令和3年10月1日(毎月1日発行) 赤十字新聞 第977号 昭和24年9月30日 第三種郵便物認可

OCTOBER 2021 NO.977

10



わたしも赤十字 寄付の協力者 西田真司 (にしだ・しんじ) さん【P.4でご紹介】

特集

赤十字WEBミュージアム連動企画

感染症と赤十字 ～治療と予防の歴史～

「感染症」との闘い

赤十字の最新情報をSNSでチェック!



赤十字新聞 編集・発行/日本赤十字社 広報室 〒105-8521 東京都港区芝大門 1-1-3 TEL:03-3438-1311 一部20円 赤十字新聞の購読料は会費に含まれています。

人間を救うのは、人間だ。

 **日本赤十字社**
Japanese Red Cross Society

「感染症」との闘い



赤十字WEBミュージアム連動企画

感染症と赤十字 ～治療と予防の歴史～

日赤の歴史は感染症との闘いの歴史でもありました。感染症に苦しむ人々に寄り添いながら、感染流行をどのように乗り越えてきたのか、歴史を振り返るとともに、現在に生かせる感染対策を考えます。



西南戦争と「コレラ」

日本赤十字社の歴史は、1877年の西南戦争中に救護団体「博愛社」として設立されたところから始まります。創立者は、大阪の「適塾」の緒方洪庵から医術を学んだ元・藩医、佐野常民。西南戦争のさなか、佐野は東京で物資や資金の調達に奔走しながら、長崎の救護所の部下に何度も電報を送りました。その内容には「**空気の清浄、衣服の清潔には特に注意有るべし**」と感染症予防の指示が。まさに当時、長崎からコレラの流行が始まり、戦場の兵士、そして全国へと感染が広がっていったのです。しかし博愛社の救護所ではコレラ患者を出さず、博愛社の活動の評判を聞き

つけた熊本県令(知事)はコレラが蔓延する水俣への救援を求め、後に熊本での感染症抑え込みの貢献に対して感謝状が贈られました。その後、日本赤十字社と名を変えてからは、日本初の看護婦養成の教科書に**感染症の予防知識を盛り込み、ポスターや刊行物を通して予防普及に**尽力し、地域の**公衆衛生を向上させて病気を未然に防ぐ「社会看護婦(保健師の先駆け)養成**を開始しました。

関東大震災と「赤痢、腸チフス」

1923年9月1日、関東大震災が発生。日赤の本社社屋は、ほぼ全焼しましたが、被災全域に51カ所の救護所を設置し、各県から医療救護班を動員、昼夜の別なく206万人を救護しました。また、衛生環境の悪化から各地に赤痢や腸チフスの感染者が出はじめると、**感染症が爆発的に拡大することを未然に防ぐため**、日赤の中央病院と東神奈川病院に**伝染病院を付設**、須崎と板橋にも臨時病院を建てて患者を収容、東京府下の感染流行を食い止めることに貢献しました。



平時も続いた「感染症」との闘い

結核撲滅を目指して

国内で最も死亡率が高く、若者が犠牲になった結核に対し、1911年、日赤は結核予防撲滅事業を開始。不治の病と恐れられた結核の専門病院を鹿児島・福岡・山口・広島・埼玉・北海道・大阪・愛知などに設置しました。また京都をはじめとする日赤支部が虚弱児童を対象に夏季保養所事業を開始しました。



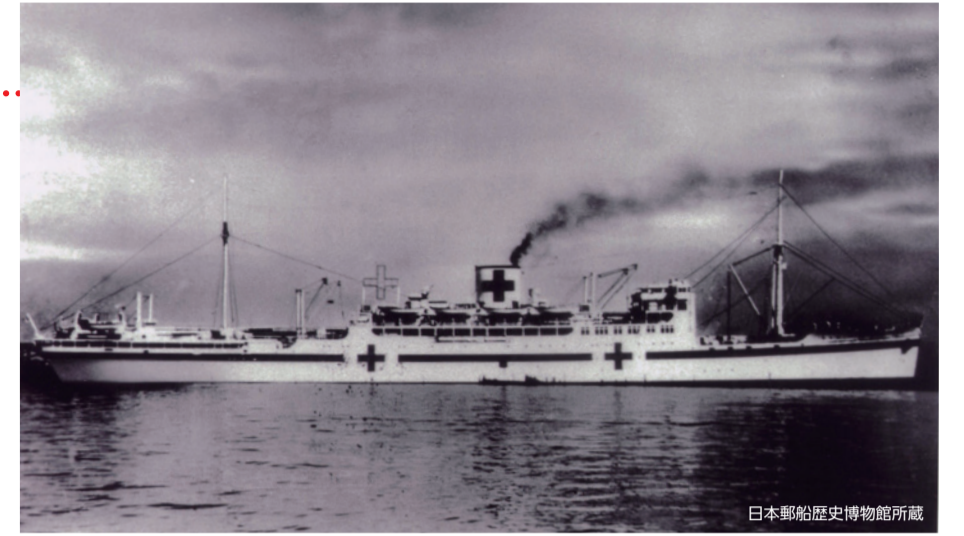
ポーランド孤児を腸チフスから救う

1920年、日赤はロシア革命後の混乱で親を失ったポーランド孤児の受け入れを開始。翌年、東京で腸チフスが流行すると孤児たちも次々と感染。看護婦らの献身的な看護により全快し、全員が母国に帰還できました。しかし、看護中の感染により1人の看護婦が帰らぬ人となりました。



太平洋戦争、引き揚げと「コレラ」

1945年に終結した太平洋戦争では戦傷だけではなく感染症によって多くの命が失われました。戦地でも**感染者は隔離されて治療**を受けましたが、戦地に派遣された日赤の救護員が衛生状態も栄養状態も悪い過酷な環境で罹患し、命を落とした例もありました。患者治療と移送のための病院船では、戦中のみならず終戦後の引き揚げ時にもコレラなどの感染症患者を受け入れ、**船尾にある伝染病室に収容**し、揺れる船内で救護員は患者の治療と世話に明け暮れました。高熱を出し、脱水でやせこけ、舌が厚い苔状のもので覆われて食事を取れない兵士に対し、若い看護婦が一生懸命アイスクリームを作って食べさせる姿を綴った記録が残されています。



日本郵船歴史博物館蔵

東日本大震災と「ノロウイルス」

2011年に発生した東日本大震災は、ピーク時で47万人が避難生活を余儀なくされました。行政も被災したため、救護チームは医療救護活動だけではなく、本来は行政が担う公衆衛生、福祉などの分野でも活動しました。例えば石巻では朝から夕方まで避難所をまわり、**マスク・消毒薬・手指消毒剤などを配付し、トイレなどの衛生管理の指導**を続けました。避難所で懸念されるノロウイルスはアルコール消毒だけでは殺菌できず、**水による手洗いが必要**です。各避難所で感染予防の啓発をしつつ、国際赤十字の緊急支援で取り寄せた簡易水道タンクを11カ所の避難所に設置しました。



© Nobuyuki Kobayashi

避難所の給水タンクで手洗いをする子供たち

熊本地震と「ノロ、インフルエンザ」

2016年の熊本地震でも、地震発生から1週間もたたないうちに避難所でノロウイルスによる感染性胃腸炎が報告されました。発災直後から被災地に入った日赤救護班は行政と連携し、**衛生や消毒指導**に尽力。患者を治療するだけでなく、**居住空間の清掃**の必要性を伝え、避難所生活者、ボランティアと共に清掃も行いました。その後、避難所ではインフルエンザも発生しましたが、ノロウイルスもインフルエンザも各避難所で展開された感染予防策によりアウトブレイクを免れました。



避難所で床の消毒清掃を行う日赤職員

まとめ 日赤は感染症との長い闘いの中で、「感染症から命を救う」には「感染する前に救う」ことが最重要であると実践を通じて学びました。すなわち一人一人が、**1. 感染しない環境を整え、2. 感染を防ぐ知識を身につけ、3. 一人からコミュニティ全体に予防の実践を広げていく**、このことが、感染症流行から人々の命を救います。コロナ禍の今こそ、一人一人が予防意識を向上させ、感染を防ぎ続ける行動を大切にしましょう。

赤十字WEBミュージアムがオープン！

赤十字の記憶を伝えるWEBミュージアムが完成しました。日赤が所蔵・保管する5万点以上の関連史料からえりすぐりの137点を写真付きで紹介する「所蔵品紹介」、日赤の歩みをたどる「赤十字ヒストリー」、赤十字とかわりの深い出来事や人物にスポットを当てる「特別企画」など、内容も充実！オープニングを飾るのは、本特集と連動する特別企画「感染症と赤十字～治療と予防の歴史～」。感染症に苦しむ人々に寄り添ってきた日赤の歴史を、貴重な所蔵資料とともに詳しくご紹介しています。ぜひウェブサイトをご覧ください。

「赤十字WEBミュージアム」
サイトはコチラ



<https://www.jrc.or.jp/webmuseum/>



「咳するときはハンケチで」。子ども向けに保健衛生知識を啓発したポスター(1920年代)



ワクチンを打っても献血はできます！

疑問解消！ コロナ禍の「献血」ガイド

日本全国に史上初の緊急事態宣言が発令されてから1年半。献血は不要不急にはあたりませんが、現在、安定的な血液の確保が困難な状況が続いています。「ワクチンを打ったら献血できないの?」「コロナになると献血できないらしいよ」。そのような不確かな情報によって献血をためらっていた方に朗報です！ワクチン接種した方も、新型コロナウイルスに感染した方も、一定の基準をクリアすれば献血ができます！



① 新型コロナワクチンを接種された方

- ・ファイザー社と武田/モデルナ社のmRNAワクチンを接種された方
1回目、2回目いずれの場合も、接種後48時間を経過していれば献血にご協力いただくことが可能です。
- ・アストラゼネカ社製ウイルスベクターワクチンなどを接種された方
厚生労働省で接種後の献血基準について検討中であることから、基準が決定するまでの間は献血をご遠慮いただいています。

② 新型コロナウイルス既感染者の方

既感染者の方のうち、症状消失後(無症状の場合は陽性となった検査の検体採取日から)4週間が経過し、回復後に治療や通院を要する後遺症がなく、問診等により全身状態が良好であることが確認できれば、献血にご協力いただけることとなりました。

献血に関する最新の注意事項はこちらから

https://www.jrc.or.jp/donation/blood/news/201223_006488.html



「いこう！献血」ぺこば出演の新CM

「明日の予定がノーマーク？ 献血いけばイイ！」と人気のお笑い芸人ぺこばさんが呼び掛ける新CMが公開されます。俳優の鈴木福さんや大政絢さんらも登場。若い世代に向けて、待たずに献血できて感染防止策にもなる「事前予約」もアピール。こちらのサイトからもご覧いただけます！



「いこう！献血」新CM
2022年3月31日まで放映中

わたしも赤十字

今月の表紙

赤十字にはさまざまな形で赤十字の活動に参加する支援者がいます。全国の支援者の中から毎月お一人を、温かいメッセージと共にご紹介いたします。

東日本大震災で揺らいた空手家の自負 寄付活動で生徒と共に未来を考える



寄付の協力者

にしだ しんじ
西田真司さん

大阪府松原市/49歳/空手道場代表

空手道場で25年、指導を続けています。道場を立ち上げる際に最低限の応急処置などを学んでおこうと、大阪府支部で救急法講習を受けたのが日赤との出会いです。子どもの生徒も徐々に増えていき、安全に稽古ができるよう幼児安全法講習にも参加して勉強しました。空手は激しいスポーツ。いざという時は、自分が助けたい。講習での学びは自信につながり、心の支えとなっています。道場の運営で忙しい中、寄付を始めるきっかけとなったのが東日本大震災。生きている間に、まさか阪神・淡路大震災を超える大地震が起こるとは。空手なんかやってる場合なのかと心が揺らぎました。被災地でのボランティア活動も考えたけれど、稽古を楽しみに待つ生徒もいる。悶々とする中、尊敬する書家の「寄付も一つの行動だ。自分ができることをやろう」という言葉と出会い、救われたんです。みんなで義援金を持っていき、以降は合宿や大会のたびに残ったお金を支部へ届けています。この先またいつ大地震が起こるかわかりません。その

怖さが消えないからこそ、家族や生徒を守れる強さを持ち続けたい。生徒にも有事の際は助けを待つのではなく、率先して動ける人になろう、そのために体力と精神力をつけようとよく話しています。以前は、強い選手を育成したい一心でしたが、今では、地域のために人助けを進んでできる人材の育成こそが大事だと考えています。共に育つと書いて「共育」。教える立場ですが、その言葉通り生徒から学ぶことも多く多いです。これからもコツコツとですが、寄付を続けていきます。

寄付するあなたも赤十字です

- クレジットカードで寄付
- 郵便局・銀行の口座振替
- 郵便局・銀行の窓口
- お近くの日本赤十字社窓口



TOPICS

日赤救護班の活動レポート

～パラリンピック競技大会をサポート～

9月5日に閉幕した、東京2020パラリンピック競技大会。最終日に陸上女子マラソンで金メダルを獲得した道下美里選手の活躍など、多くの感動を呼びました。

日赤では競技大会開催を支援するため、ボランティアなどを対象とした救急法の講習を実施してきました。大会は無観客開催となりましたが、人出が想定されたパラリンピックのマラソンでは、東京都からの要請により、沿道での傷病者発生に備えて救護要員を派遣。コースに沿って設置された救護所には医師・看護師などのほか、東京都看護赤十字奉仕団も出動し、救護所には新型コロナウイルス対応を踏まえた隔離用天幕や資機材も備えました。また、傷病者などが発生した際に現場で応急手当てを行うファースト・レスポnder・チームも、コース沿道を巡回しました。幸いにして競技中に大きなトラブルも発生せず、オリンピック・パラリンピックの最終日を締めくくる競技の支援を無事に終えることができました。



東大脳に挑め!

知識を深める赤十字QUIZ

出題 東京大学クイズ研究会(TQC)

知ってるつもりでも、意外と知らない赤十字のこと。東大クイズ研が手掛ける問題にあなたは正解できる!?

今月のテーマは、「赤十字と児童福祉」についてです。昨年公開された映画『朝が来る』では養子縁組が注目を浴びましたが、実は生みの親と一緒に暮らすことができない子供たちを救うには、ほかにもさまざまな方法があります。今回はそのうち、「里親制度」に焦点をあてた問題です。

今月のクイズ

難易度：★★★

次の文章を読み、【あ】と【い】に入る言葉を答えてください。

ヒント
里親制度では、子どもが普通の家庭から毎日学校に通えるようになることを重視しています。

里親として認められるには、児童相談所に申請して研修を受講する必要がありますが、特別な資格はいりません。里親になると生活費や【あ】などの手当が毎月支給されます。日本赤十字社の【い】や児童養護施設では専門相談員による里親へのサポートを行っています。



AREA NEWS

全国各地
あなたの生活のすぐそばで
日本赤十字社の活動は行われています。

千葉県 スイカ割りによるヨヨー釣り！ 小児病棟で夏祭りを開催

8月4日、成田赤十字病院の小児科病棟で夏祭りを開催しました。長期入院中の子どもたちに夏休みのひとときを楽しんでもらおうと小児科レクリエーションチームが企画したもので、当日の病棟にはカラフルな手作り屋台がずらり。子どもたちはヨヨー釣り、輪投げ、的当てなどに家族と一緒に挑戦し、楽しそうな声とたくさん笑顔が病棟にあふれました。



(左)小さい子から順番にスイカ割りにチャレンジ！ 医師も飛び入り参加

東大脳に挑戦！クイズの答え

【あ】=教育費 【い】=乳児院

里親制度は養子縁組と違い、里親と子どもに法的な親子関係はありません。子どもの親権は実親が持ち、里親は実親の代わりに一時的に子どもを預かり、養育します。里親手当や生活費等の養育費が支給されるため経済的な負担は少ないですが、親代わりとなり、温かい愛情と正しい理解を持って養育することが求められます。日本赤十字社の乳児院と児童養護施設では、里親支援専門相談員が、初めての方でも安心して里親としてやっていけるようサポートを行っています。

宮城県 仙台赤十字病院へ89ERSが 足こぎ車いす「COGY」をお届け！

8月4日、仙台赤十字病院にプロバスケットボールチーム・仙台89ERSから、リハビリ用足こぎ車いす「COGY」の寄贈がありました。日赤宮城県支部とパートナーシップ協定を結ぶ同チームは「子どもたちのリハビリに役立ててほしい」という思いから子ども向けCOGYのほか、サイン入りユニホームなども小児科にプレゼント。療養中の子どもたちを大いに喜ばせました。



渡辺翔太選手、マスコットキャラクターのティナも来院

岐阜県 秋田県 「こんな時こそ、誰かの支えに！」 コロナ禍で活動する赤十字奉仕団

全国の赤十字奉仕団はコロナ禍で活動が制限される中、今の状況でもできるボランティア活動を模索し、工夫を重ね、取り組んでいます。日赤岐阜県支部の坂祝町赤十字奉仕団は、コロナ禍で困難な状況にある人々の支えになれたらと、ボランティア活動として野菜作りを開始。団員たちが手塩にかけて実らせたのは、6月に苗を植えたサツマイモ、カボチャ、メロンなど。8月3日には、その日の朝に収穫した旬の野菜・果物を3つの介護施設に届けました。秋田県支部の秋田市赤十字奉仕団は一度に集まる人数を減らし、作業時間が短くてもできる活動とを考え、あきたフードバンクへの支援を実行。団員一人一人が自宅にある食品を持ち寄り、コメ、缶詰、お菓子など約1000品の寄付が実現。団員も自分たちの団結力を実感する活動となりました。

福島県 原発事故を乗り越えて… 奉仕団が10年6カ月ぶりに再開

東日本大震災による原発事故により、福島第一原発に隣接する富岡町では町全域に避難指示が出され、富岡町赤十字奉仕団も活動休止に。しかし、避難解除で町に戻った人々の中で「避難先で他県の日赤奉仕団の支援を受けて勇気づけられたから…」と、10年6カ月ぶりに奉仕団を再開。9月1日、総会に参加したメンバーたちは赤十字奉仕団としての決意を新たにしました。



総会では救急法講習会の開催など今年度の事業計画を決定

岐阜県 秋田県 「猛暑に負けず元気に過ごして」という思いを込めて野菜をお届け



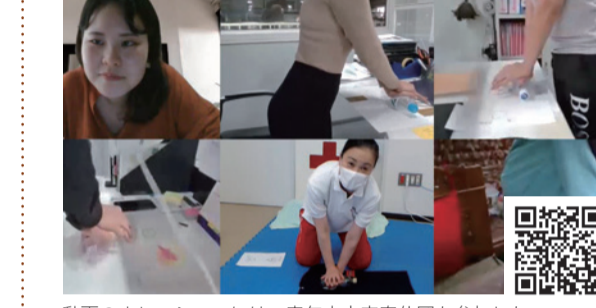
「猛暑に負けず元気に過ごして」という思いを込めて野菜をお届け



団員のチカラを結集して集めた食料品をフードバンクへ

埼玉県 外国人の仲間もウエルカム！ 救急法講習会を英語で実施

日赤埼玉県支部は、県内在住の外国人を対象に英語によるオンライン救急法講習会を実施しました。この講習は、母国で赤新月社ボランティアをしていたチュニジア人女性の「今住んでいる地域でも、人のためになることをしたい」という相談がきっかけに。講習では職員による同時通訳を行い、さらにこれを機に、英語で一次救命処置を学べる動画もYouTubeで公開しました。



動画のナレーションには、青年赤十字奉仕団も参加した

徳島県 2年の歳月をかけて完成！ 要支援者向け段ボールベッド

日赤徳島県支部は9月6日、全国に先駆けて作製した、障害者など要配慮者および乳児向け2種の段ボールベッドの贈呈式を松茂町で開催しました。配慮が必要な人が避難所で困難な生活を強いられていることを医療救護班が把握し、赤十字乳児院や総合療育センターも擁する同支部独自の視点で開発に注力。今後は、県内各地に配備を進め、災害支援に活用する予定です。



床よりも高い位置にあるベッドではこりやウイルスの影響を軽減

岩手県 香川県 山口県 感染症対策の工夫を凝らして青少年トレセンを各地で実施

青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター(トレセン)が新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から日程を短くするなどの工夫を重ねつつ、全国各地で開催されました。岩手県支部によるトレセンは「スタートプログラム」と銘打って小規模かつ短期間で集中的に実施。教員、小学生、中学生にそれぞれクラスを分け、竹ひごタワー作りやグループ討議、健康プログラムとして心肺蘇生やAEDの使い方を学びました。香川県支部もトレセン初の試みとして合宿なしの2日間の開催に。参加人数を半数以下に絞り、県内小中高生41人が参加して、防災コミュニケーションのワークショップや救急法などのフィールドワークで絆を深めました。山口県支部のトレセンはオンラインで開催。県内の小学生22人と高校生13人が参加し、インターネットを通じた共同作業に積極的に取り組みました。



心肺蘇生の方法やAEDの使い方を学ぶ講習も実施



「体内の血液量はどれくらい？」。体験を通して学ぶ オンラインの画面越しでも仲間との一体感を

常任理事会開催報告

令和3年9月17日、令和3年度第5回の常任理事会が開催されました。今回の常任理事会では付議事項はありませんでしたが、大雨災害における日本赤十字社の対応、最近の国際情勢、令和3年9月「ACTION！防災・減災の実施」NHKタイアップスポット動画(新型コロナウイルス「第5波」医療現場からのメッセージ動画)、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う対応状況(医療事業)、令和3年度献血推進方策、予算の補正にかかる社長専決事項等の決定状況について、それぞれ報告しました。

※オンラインによる開催となりました。

令和3年 長野県茅野市土石流災害義援金

受付 2022年3月31日(木)まで

日本赤十字社では、令和3年長野県茅野市で発生した土石流により被災された方々を支援するため、義援金を受け付けております。お寄せいただいた義援金は全額を被災地にお届けします。

詳細は日赤ホームページをご確認ください。

日赤 国内災害義援金 検索

2022年版が販売開始！ 赤十字手帳と赤十字カレンダー

今年もセットでプレゼント。応募方法は下記をご覧ください。

10名さまに

赤十字手帳2022年版
赤白リバーシブルカバー
別冊赤十字便覧
(約15cm×9cm)
(350円税込込み・送料別)

赤十字カレンダー2022年版
壁掛けカレンダー
(B3、13枚つづり)
(935円税込込み・送料別)

【お問い合わせ・ご注文】
株日赤サービス TEL:03-3437-7516 FAX:03-3459-1432

ニッポンの赤十字ゆかりの地を巡る vol.7

赤十字名所紀行

常民の80年の生涯に触れながら、人道と博愛の精神を学ぶ

このたびリニューアルされた「佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館」(旧佐野常民記念館)は、日本赤十字社の生みの親、佐野常民に関する資料をわかりやすく伝える施設です。館内展示やシアター映像とともに「赤十字コーナー」も刷新されています。JR佐賀駅からバスで30分ほどの場所に位置し、体験学習などを通して、常民の博愛の精神を学べる人材育成の拠点施設となっています。隣接する「三重津海軍所跡」は世界遺産「明治日本の産業革命遺産」の構成資産の一つとして登録されています。常民が三重津海軍所の創設や、三重津海軍所における日本初の実用蒸気船「凌風丸」の建造に深く関わっていることなどについても、館内展示で紹介しています。

※ 機関の完成度、実用性において

歴史館では常民の貴重な資料を多数展示

9/25 リニューアルオープン！

「赤十字コーナー」には大型パネル展示や救護服を着用したマネキンで日赤の活動を紹介。65インチモニターでは、日赤関係動画を常時上映している

「佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館」オープン記念品
白雲石吸水コースター(2個セット)
3名さまにプレゼント!

佐野常民 凌風丸

1865年に三重津海軍所で建造された日本初の実用蒸気船。三重津海軍所は、当時、他藩に先駆けて取り入れた西洋の技術を用いて、洋式船の製造・修理を行っていた。

プレゼント希望者は、以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・WEBでご応募ください。①希望プレゼント(手帳・カレンダーorコースター) ②お名前 ③郵便番号・ご住所 ④電話番号 ⑤年齢 ⑥赤十字NEWS 10月号を入手した場所(例/献血ルーム) ⑦10月号に関するご感想

郵送/〒105-8521 東京都港区芝大門 1-1-3
日本赤十字社 広報室 赤十字NEWS 10月号プレゼント係
FAX/03-6679-0785 WEB応募/右の2次元バーコードからご応募ください。
10月31日(日)必着 ※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます

WORLD NEWS

ハイチ地震における赤十字の支援活動




被災地で多くの医療機関が壊滅するなか、治療が可能な病院では床にまで傷病者があふれた

多くの社会問題を抱えるハイチを再び襲った大地震

大統領が暗殺されるという政治的混乱の最中に大地震が発生。さらにハリケーンやCOVID-19の脅威もある現地の状況とは？

病床不足、屋外で治療を受ける患者も…
国際赤十字が「野外病院」を展開

8月14日の朝(現地時間)に中南米・ハイチ共和国でM7.2の大地震が発生し、死者2200人以上、負傷者1万2000人以上といった甚大な被害をもたらしました。さらにその3日後には強い熱帯低気圧が襲来。豪雨による洪水も起こり、余震の影響も含めて少なくとも13万棟の家屋が全半壊したことが報告されています。

ハイチ赤十字社では発災直後より、さまざまな救援物資を配布してきました。

しかしながら、大規模災害においては現地の支援団体も同様に被災者となります。地元の病院の多くも地震によって損壊し、患者の受け入れが可能な施設や病床はごくわずか。病院内に入ることすらできず、屋外で治療を受ける患者も少なくありません。さらにCOVID-19のワクチン接種率が人口の1%に達していないことも、大きな不

安材料となっています。こうした状況を受けて国際赤十字ではフィンランド赤十字社を中心に、手術や入院機能を持つ病院ERU(野外病院)の展開を決定。医師・看護師・理学療法士などからなるチームも現地に着し、国際赤十字による支援が本格化しています。

11月まで続くハリケーンシーズン
避難生活を余儀なくされる人々に支援を

以前よりハイチでは政治的混乱や経済不安などの社会問題が山積みです。治安は悪化の一途をたどり、人道支援団体の職員すらも身代金目的の誘拐や略奪の脅威にさらされています。

国連は大地震の発生後、影響力のある「ギャング」に対して支援活動の妨げになる暴力行為を停止するように要請。また国際赤十字も「私たちは中立・独立の人道支援団体であり、差別なく、すべての立場の被災者の生命と尊厳を守ります」とメッセージを発信し、支援活動を継続しました。現在では救援物資の輸送や職員・ボランティアの安全な移動が可能となりました。

政情不安と治安の悪化、そこに起きた大地震。家を失った多くの人々は、屋根もない場所で避難生活を余儀なくされています。しかしハイチのハリケーンシーズンは11月まで続くため、自然災害におびえる日々はまだまだ終わりません。

ハイチ赤十字社の代表は世界に向けて「私たちは赤十字の基本原則である人道の名のもと、被

災した人々と地域に必要な支援を届けていきます。皆さんの支援をどうぞよろしくお願い致します」と呼びかけています。日本赤十字社ではハイチ地震の被災者への支援を受け付けています。

海外救援金、受付中

2021年ハイチ地震

受付:2021年11月30日(火)まで



アフガニスタン人道危機

アフガニスタン共和国は、年初来の大干ばつに加えて、8月まで国内各地で続いた戦闘により、複合的な人道危機(干ばつ、国内避難民、新型コロナ)の状況にあります。現地での赤十字の人道支援のため、救援金を募集いたします。

受付:2022年3月31日(木)まで



詳細は日赤ホームページをご確認ください。



© Meer Abdullah Rasikh / Afghan Red Crescent Society



© Luc Alary CRC

国際赤十字が届けた199トンの救援物資を、ハイチ赤十字社が配付



© ICRC

赤十字、世界の「現場」から

supported by ICRC

赤十字国際委員会(ICRC)が展開する紛争地での保護活動や避難民支援。その活動現場で切り取られた、知られざる世界の姿、世界の課題。

1859年イタリア統一戦争で4万人を超える死傷者を出した「ソルフェリーノの戦い」。ソルフェリーノの納骨堂には、約7000人の遺骨が納められている。この地ではいまだに当時の戦死者の骨が見つかり、敵味方、階級、国籍の区別なく公平に扱う証として、頭、腕など部位ごとに保管されている。

赤十字の理念を
世界各地で実践
するICRCとは⇒



ソルフェリーノの戦いで負傷した兵士の救護にあたったアンリー・デュナンはその体験を本につづり、負傷兵を救う救護組織の結成と、その活動を保障する国際条約を提案。この主張が実を結び、1864年に「ジュネーブ条約」が締結され、今日の国際赤十字組織の礎となった。